

ケアリングコミュニティ理論の哲学的・思想的価値について**—近年の福祉のメタ理論（哲学的）研究の動向を踏まえて—**

○ 東北福祉大学 氏名 大石剛史（会員番号008312）

キーワード3つ：ケアリングコミュニティの理論、福祉のメタ理論、福祉原理

1. 研究目的

報告者はこれからの社会福祉（地域福祉）実践の基盤となる思想・哲学（「福祉のメタ理論」（稲垣 2013,p.12））としてケアリングコミュニティの理論を検討した。（大石 2019,p.230-257）。その理論の特徴は、人々の「ケアリング」の意義を踏まえてそれを福祉の原理の中核に据えつつ、一方でその限界を踏まえて制度や市場などの「システム」による補完のあり方、それらを架橋する「コミュニタリアニズム」や「討議倫理」、「スピリチュアリティ」などの位置づけを検討し、現在構築が目指されている地域共生社会の基盤となる包括的な福祉のメタ理論として構築されている点であると考えている。

しかしこの理論は報告者が博士論文として上梓したにとどまり、現時点でその理論の有用性や限界について議論がなされているとは言い難い。そこで本研究では、近年の福祉の哲学的（福祉のメタ理論）研究をいくつか取り上げ、それらの研究とケアリングコミュニティの理論とを比較検討し、拙論、「ケアリングコミュニティの理論」が有している哲学的・思想的価値について検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、近年の福祉のメタ理論（福祉哲学的）研究として、中村剛の福祉哲学の研究（2014・2015）、岩崎晋也の福祉原理の研究（2018）、山本馨の地域福祉実践の社会理論（2018）を取り上げる。これらの研究はここ10年間に提起された包括的な福祉のメタ理論研究であると捉えた。それぞれの論者の理論には特徴があるが、本研究では各理論の特徴を踏まえつつ、理論間の類似点や相違点を考察し、かつ各理論の意義と限界について検討する。そしてこれらの検討を踏まえて、拙論「ケアリングコミュニティの理論」の福祉のメタ理論としての価値について考察する。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の倫理規定に則り、特に文献研究である本研究においては、自説、他説の区分を明確にし、引用、参照した箇所を明記する。なお、演題発表に関連し、標記すべきCOI関係はない。

4. 研究結果

まず、中村、岩崎、山本、大石の各理論を比較検討した結果、4者の類似点を以下の4点に整理した。①現象学的人間理解（中村、山本、大石）、②「親密圏」—「公共圏」—「システム」、またはそれに類似した枠組みで社会福祉の全体像を捉える視点（中村、岩崎、大石）、③現代社会福祉課題の分析枠組みとしてウルリッヒ・ベックの「再帰的近代化（特に

個人化)」の理論を用いている（中村、岩崎、大石）、④「福祉」的な行為に人々をつき動かす2側面、「情動的ケア」と、「倫理的ケア」の位置づけ（中村、大石）。

次に4者の相違点については次の4点に整理した。①福祉のメタ理論を福祉に固有なものとするか否かに関する相違。②福祉の原理における「関係性」の位置づけの相違、③理論研究の方法論上の相違（哲学、歴史学、類型論等）。④理論が「開放系」の特質を持っているか、「閉鎖系」の特質を持っているかについての相違。

5. 考察

4者の共通点から、福祉のメタ理論の重要点を要約すれば、①現象学的人間理解から、福祉が対象とする人間の本質を個別性（理解不可能性）と関係性（共感可能性）から捉え、関りの意義と支援における倫理の必要性を基礎づける点、②福祉支援の構造をマイクロ（親密圏）－メゾ（公共圏）－マクロ（システム）として捉える理論的根拠を与えている点、③ベックの「個人化」の理論から現代の福祉課題が「孤立化（関係がないこと）」であり、「人間のつながりの回復」が取り組むべき課題であることを基礎づけている点、④情動的ケアと倫理的ケア双方の意義と限界、またその相補性を位置づけている点である。

4者の相違点からは福祉のメタ理論の論点と課題が浮かび上がる。第1の論点は福祉の哲学を社会福祉学固有の哲学として位置づけるか否かという論点である。第2の論点は福祉の原理を（人間の）関係性を前提として捉えるか、関係のない他者への支援として捉えるかという論点である。第3の論点は福祉のメタ理論を深めていく際の学際的アプローチのあり方である。第4の論点は福祉のメタ理論が他の分野の理論と対話し変容しうるか、一方でその固有性をどのように表わしうるかという論点である。

以上を踏まえ、拙論ケアリングコミュニティの理論は以下のような特質を有していると考えられる。まず、4者の共通点から導き出される福祉のメタ理論の4つの要点を独自の視点から考察した理論になっていることである。一方相違点で示した4つの論点から、その理論的特徴として、①人間がケアし関わり合うことを原理においた理論であること、②福祉学固有性にこだわらない開放系の理論的特徴を有していること、③多様な学際的知見を用いて福祉のメタ理論を構築していることである。

このような特質を持つケアリングコミュニティの理論は、その意義として社会福祉及び地域福祉の実践や政策を幅広く包括する福祉のメタ理論として機能しうる点が挙げられる。またさらに、開放系（他の分野の理論と対話し得る）の理論的特徴から、理論が批判的に問い直され続けられるところにも意義があると考えられる。一方、欠点としては包括的なメタ理論であるがゆえに、具体的な福祉実践におけるメタ理論としては理論の具体性を欠く点、また開放系の理論的特徴から、理論が都合よく改変されて用いられる危険性がある。いずれにしても福祉のメタ理論研究は様々な学問的対話をとおして、批判的に探究され続けられる必要があると考える。各論者の理論の意義と限界については当日補足する。

（※紙幅の関係で参考文献一覧については当日資料に記載する）